

# 北区 生物マップ

## 田端・滝野川エリア

### 田端・滝野川エリアでみられる 主な植物

#### オニヤブソテツ (オシダ科)

*Cyrtomium falcatum*



海岸近くに多く見られる常緑性のシダ植物。道端や石垣などにも生え、庭にも植えられます。北区では飛鳥山公園などの公園で見ることが出来ます。葉が全体に厚く、深緑色で光沢があります。

#### ベニシダ (オシダ科)

*Dryopteris erythrosora*



山地の林床から人家の庭先など広い範囲に生育する常緑性のシダ植物。北区では飛鳥山公園の崖地の林床などで見ることが出来ます。若葉が赤みを帯びる(紫赤色~赤褐色)ことから、この名がつけました。

#### スダジイ (ブナ科)

*Castanopsis cuspidata var. sieboldii*



暖地に自生する常緑高木。北区では社寺や公園によく植えられています。飛鳥山公園や名主の滝公園などの崖地では、まとまった林が見られます。深緑色の葉をびっしりとつけ、5~6月に強い匂いのある花をつけます。

#### クヌギ (ブナ科)

*Quercus acutissima*



やや湿ったところを好む落葉高木。雑木林の代表的な構成種ですが、北区では首無くぬぎ緑地などの公園によく植えられています。秋につける堅果(ドングリ)は球形で大きく、子どもにも人気があります。

#### シラカシ (ブナ科)

*Quercus myrsinaefolia*



暖地に自生する常緑高木。北区では崖地の林などに自生していますが、公園や学校のほか、工場や公共施設の植栽にも用いられ、目にすることの多い樹木です。樹高は20mくらいになり、葉はやや革質で浅い鋸歯があります。

#### エノキ (ニレ科)

*Celtis sinensis var. japonica*



やや湿ったところを好む落葉高木。高さは20mを超えます。北区では崖地の林などに自生していますが、公園にもよく植えられています。かつて、一里塚に目印として植えられました。西ヶ原の一里塚でも見ることが出来ます。

#### ヒサカキ (ツバキ科)

*Eurya japonica*



山地の林床に自生する小高木で、大きいものは高さ10mになります。よく発達した林の林床に見られますが、公園や庭にもよく植えられます。3~4月に強い匂いのある白い花をつけ、実は黒く熟します。

#### アジサイ (ユキノシタ科)

*Hydrangea macrophylla*



暖地の海岸沿いに自生するガクアジサイから改良されたものです。近年は、海外で改良されたセイヨウアジサイが逆輸入されています。公園や庭によく植えられ、北区では飛鳥山公園の植栽が有名です。

#### ソメイヨシノ (バラ科)

*Prunus x yedoensis*



よく知られているサクラの園芸品種で、エドヒガンとオオシマザクラの雑種といわれています。北区では、飛鳥山公園や石神井川沿いなどに多数植えられています。葉柄や花柄に毛があるのが特徴です。

#### サトザクラ (バラ科)

*Prunus lannesiana*



サクラは200種以上の園芸品種が知られており、これらを総称してサトザクラと呼んでいます。飛鳥山公園には写真のカンザン(関山)のほかにもウコン(鬱金)やイチヨウ(一葉)など、さまざまな品種が植えられています。

#### ミズキ (ミズキ科)

*Cornus controversa*



やや湿った場所を好む落葉高木。北区では、飛鳥山公園などの崖地の林に自生していますが、公園などに多く植えられています。高さは20m近くに達し、5~6月に白い花を密につけます。実は紫黒色に熟します。

#### シャガ (アヤメ科)

*Iris japonica*



林内に群生する常緑の多年草。古い時代に中国から入ってきたといわれています。北区では飛鳥山公園など、樹木の多い公園の林床で見られます。4~5月に淡紫色の花をつけます。根茎を伸ばして贈ります。

### 田端・滝野川エリアでみられる 主な昆虫類

#### オオシオカラトンボ (トンボ科)

*Orthetrum triangulare melania*



シオカラトンボよりやや大きく、色の濃いトンボです。成虫は、シオカラトンボに比べ周囲に樹木が茂っているようなやや暗い場所を好みます。北区では、旧古河庭園や赤羽自然観察公園で見られます。

#### ウスバキトンボ (トンボ科)

*Pantala flavescens*



大きな複眼を持ったオレンジ色のトンボです。幼虫は寒さに弱く、九州から北では冬を越せません。毎年南方から成虫が飛来し、世代を繰り返しながら北上してきます。北区では、7月から9月にかけて見られます。

#### コシアキトンボ (トンボ科)

*Pseudothemis zonata*



オスの腰(腹部の上部)が白く透けたように見えるので、「腰空き」の名がつけられました。6月から9月に平地から丘陵地の池や沼で見られ、周囲に樹林のある環境を好みます。北区では、池のある公園などで見られます。

#### ツツレサセコオロギ (コオロギ科)

*Velarifictorus mikado*



丈の低い草を好みますが、住宅の庭や公園でも普通に見られるコオロギです。石の下や、枯れた草の間によく隠れています。8月頃から秋にかけて、オスは夜に「リー・リー・リー」とや大きな声で鳴きます。

#### カネタタキ (カネタタキ科)

*Ornebius kanetataki*



夏から秋に、生垣などで「チンチンチン」と鎌を叩くような声で鳴くことからこの名があります。体長は10mm程度で、メスには翅がありません。北区では、各地の公園で見られます。住宅地にも普通に生息しています。

#### アブラゼミ (セミ科)

*Graphopsaltria nigrofuscata*



「ジー、ジリジリジリ」という声が、油を熱したときの音に似ているというのが、名の由来のひとつです。体は黒色で、翅は茶褐色です。7月中旬から9月にかけて声を聞くことができますが、最盛期は8月です。

#### ニイニゼミ (セミ科)

*Platypleura kaempferi*



「チー」と連続した高い声で鳴きます。平地から低山地の明るい林に生息しています。緑褐色の体に黒い斑紋があります。夏季に見られるセミ類の中ではいち早く出現し、6月下旬から9月まで声を聞くことができます。

#### ツマグロオオコバイ (ヨコバイ科)

*Bothrogonia ferruginea*



庭木の葉の裏によく止まっていて、子どもたちは「バナナムシ」の愛称で親しまれています。成虫は8月頃出現し、成虫のまま落ち葉の下などで越冬します。さまざまな植物の汁を吸い、果樹に害を与えることもあります。

### 北区の公園で拾えるドングリ

#### スダジイ *Castanopsis cuspidata var. sieboldii*

暖地に自生する常緑樹。北区では崖地の林で見られるほか、公園や庭園、社寺によく植えられています。ドングリは長さ1.2~2cmの細長い卵型。鱗のような殻斗(かくと・帽子と呼ばれる部分)に包まれています。

#### マテバシイ *Lithocarpus edulis*

暖地の海岸近くに自生する常緑樹。北区では公園などによく植えられています。ドングリは長さ1.5~2.5cmの長だ円形。すんぐりとした大きなドングリです。

#### シラカシ *Quercus myrsinaefolia*

暖地に自生する常緑樹。北区では崖地の林で見られるほか、公園や庭園、校庭などによく植えられています。ドングリは長さ1.5~1.8cmの卵型。殻斗は輪を積んだような形をしています。

#### ウバメガシ *Quercus phillyraeoides*

暖地の海岸近くに自生する常緑樹。北区では生垣などに使われていますが、あまり多くはありません。ドングリは長さ約2cmのだ円形。先が尖り気味なのが特徴です。

#### コナラ *Quercus serrata*

雑木林でよく見られる落葉樹。北区では、公園や団地の植栽地によく植えられています。ドングリは長さ1.6~2.2cmの長だ円形。殻斗には細かい鱗片がびっしりと並んでいます。

#### クヌギ *Quercus acutissima*

雑木林でよく見られる落葉樹。やや湿った場所を好みます。北区では、公園や団地の植栽地に植えられています。崖地の林でも見られます。ドングリは長さ2~2.3cmの球形。殻斗はトゲ状です。

### 田端・滝野川エリアでみられる 主な鳥類

#### コサギ (サギ科)

*Egretta garzetta*



全長61cm。シラサギの仲間では小型の種類です。嘴の色が黒く、足指が黄色いのが特徴です。北区では、水辺で1年中見られます。小さな池や水路にも降りて、歩きながら小魚やエビなどの食べ物を探します。

#### コガモ (カモ科)

*Anas crecca*



全長はオス41cm、メス34cm。オスは頭の栗色と緑色、体側の白い線が特徴です。冬鳥のカモの仲間では最も早く、9月には渡来し、石神井川や浮間公園、赤羽自然観察公園などで見ることが出来ます。

#### キンクロハジロ (カモ科)

*Aythya fuligula*



全長はオス44cm、メス38cm。尾が短く丸つたい型をしています。北区には冬鳥として10月頃、浮間公園や石神井川に渡来します。石神井川では、水に潜り、食べ物を探す様子を見ることが出来ます。

#### ユリカモメ (カモメ科)

*Larus ridibundus*



全長は41cm。嘴と足の赤色が目立つカモメの仲間です。北区には冬鳥として10月頃渡来し、浮間公園や石神井川に多数集まります。4月末頃には北へ渡りますが、その頃には頭の黒くなった夏羽の姿も見られます。

#### ドバト (ハト科)

*Columba livia*



全長は33cm。公園や駅前広場などで、よく群れているハトの仲間です。アフリカ北部から中央アジアに生息するカワラハトをもとに作られた品種が、再び野生化したものです。羽色には変異が多くあります。

#### コゲラ (キツツキ科)

*Dendrocopos kizuki*



全長は15cm。スズメくらいの大きさのキツツキの仲間です。「キーン」ときしむような声で鳴きます。北区では飛鳥山公園や古河庭園のような樹木の多い公園で、ほぼ1年中見ることが出来ます。

#### ツバメ (ツバメ科)

*Hirundo rustica*



全長は17cm。毎年3月末から4月になると、東南アジアから渡ってくる夏鳥の代表です。人家の軒下などに巣を作るので、古くから親しまれてきましたが、近年市街地では巣の数が減ってきているようです。

#### キセキレイ (セキレイ科)

*Motacilla cinerea*



全長20cm。胸から腹にかけて黄色い、セキレイの仲間です。水辺に生息し、開けた場所よりも細い沢や水路のような環境を好みます。北区ではおちに石神井川で、秋冬に姿を見ることが出来ます。

#### シロハラ (ツグミ科)

*Turdus pallidus*



全長24cm。灰褐色をしたツグミの仲間です。北区には冬鳥として渡来し、飛鳥山公園や旧古河庭園のような樹木の多い場所の、暗い林床でよく見られます。落ち葉をかき分けて、ミミズなどの食べ物を探しています。

#### メジロ (メジロ科)

*Zosterops japonica*



全長12cm。スズメよりずっと小さく、淡い緑色の小鳥です。北区では公園や緑の多い住宅地で、1年中見ることが出来ます。小さな昆虫やワクモを捕まえますが、秋冬には熟したカキの実やツバキの花にも集まります。

#### アオジ (ホオジロ科)

*Emberiza spodocephala*



全長16cm。スズメよりやや大きい、緑色を帯びた褐色の小鳥です。北区には冬鳥として渡来し、公園や緑の多い住宅地で見られます。やぶや植え込みなど、やや暗い場所を好みます。

#### スズメ (ハタオリドリ科)

*Passer montanus*



全長14.5cm。最も身近な小鳥ですが、よく見ると込み入った模様をしています。住宅地でも普通に見られ、屋根のすき間などに巣を作りますが、近年数を減らしているという調査結果が示され、話題になっています。

#### ヤマトシジミ (シジミチョウ科)

*Pseudozizeria maha argia*



市街地で最も普通に見られるチョウですが、小さくて地味なのであまり目立ちません。成虫は春から秋遅くにかけて年に5~6回出現します。幼虫は、道端や庭の隅などにはえていたカタバミの葉を食べます。

#### ツマグロヒョウモン (タテハチョウ科)

*Argyreus hyperbius hyperbius*



かつては静岡県から南西諸島にかけて分布していましたが、ここ数年、関東地方でも普通に見られるようになりました。幼虫はスミレ科植物の葉を食べますが、パンジーやビオラなどの観葉植物の葉もよく食べます。

#### サトキマダラヒカゲ (ジャノメチョウ科)

*Neobe goshkevitschii*



雑木林の林縁など、やや暗い環境を好みます。成虫は年に2回出現し、樹液や腐った果実の汁を好んで吸います。幼虫はメダケなど、ササ類を食べます。北区では旧古河庭園など、樹木の多い公園などで見られます。

#### フタモンアシナガバチ (スズメバチ科)

*Polistes chinensis antennalis*



草花を好みますが住宅地にも多く、アシナガバチの仲間では、最も目につきやすい種類です。チョウやガの幼虫を捕まえ、肉団子にして幼虫に与えます。ヤブガラシなどの花の蜜を餌とすることもあります。

### 田端・滝野川エリアでみられる 主な爬虫類

#### クサガメ (イシガメ科)

*Chinemys reevesii*



浅い池沼や流れの緩い川に生息しています。甲羅は黒っぽく、3本のキール(隆起した線)があるのが特徴です。首に黄色い模様があります。北区では名主の滝公園などの公園の池や石神井川で見ることが出来ます。

#### ミシシippiacamimigame (ヌマガメ科)

*Trachemys scripta elegans*



アメリカ合衆国南部からメキシコ北東部が本来の分布域です。ミドリガメの名でペットとして飼われていたものが逃げたのがありました。北区では、名主の滝公園などの公園の池や石神井川で、普通に見ることが出来ます。

#### ニホンスッポン (スッポン科)

*Polodiscus sinensis*



食用になることで有名なカメの仲間です。本州以南に分布しますが、養殖場から逃げたものが多く見られるようになっています。北区では、石神井川で見られます。歯がすどく、かみつき力が強いので、注意が必要です。

#### ニホンカナヘビ (カナヘビ科)

*Takydromus tachydromoides*



北海道から九州に分布する、最も普通に見られるトカゲの仲間です。尾が長く、全長の3分の2くらいあります。体はわりかたさした感じに見えますが、公園や庭先でも見られますが、やや乾いた環境を好みます。